

2003年12月

わが国の観光の現状と問題点

—国際観光振興のために—

石 月 昭 二

(現(財)日本気象協会会長・

前(社)日本観光協会会長)

原子力の意味を考える

—その歴史・現状・問題点—

森 一 久

((社)日本原子力産業会議副会長)

財団法人 統計研究会

内外経済情勢懇談会・編

『原子力の意味を考える』

—その歴史・現状・問題点—

森 一久 ((社)日本原子力産業会議副会長)

神谷克巳(司会): もんじゅの事故などのあとで、森先生から我が国の原子力開発計画について、この研究会でご報告をいただいたことがあり、お手元の経歴書にございますように、長く原子力産業会議でお仕事をいらっしゃいます。少し前までは電力不足ということが懸念され、いったい原子力発電がどうなるのだろうという関心が高まっております、ぜひこの問題もご報告いただきたいと思います。電力不足はどうやら危機は脱したようだと言われておりますが、基本的な問題がいろいろあるのではないかと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

森一久: 原子力産業会議の森です。本日は、事前にお知らせしたタイトルとは少し違いますが、『原子力の意味を考える』という題でご報告し、皆さんにいろいろご批判いただきたいと思っております。

1. はじめに—人類史から見る—

それでは、資料に書いてある順序で。このあたりは、人類史みたいなことになるのですが、20万年ぐらい前でしょうか、人間は「言葉」というものを発明してコミュニケーションの手段を持ったということから、非常に発展をしたと同時に、疑心暗鬼の動物になったわけでございます。動物のままでおれば「あの国は大量破壊兵器をつくっているかもしれないから、やっつけてしまえ」なんてことはないわけですが、人間の場合はなかなかそうはいきません。「言葉」というものは、必ず不正確なものである。その悩みを抱え続けてきたのが人間ではないかなと、最近つくづく思うわけです。それを補うものとして、ハイデガーなんかが言っておりますように、詩だとか思索とか、哲学とかそういったものが必須なわけですが、最近の日本の政治などは、言葉のもてあそびのような様相を呈している状況です。しかし、資料に戻りまして、人間の大きな科学的というか知性の方の進歩を括ってみますと、まず言葉の不正確さのための社会の混乱に悩んだ末、3000年ぐらい前からいろいろな形の宗教が生まれてきているわけです。そのなかには、ご存知のエデンのアダムとイヴの禁断の木の実というのが「創世記」の始めにあります。それと同じようなことが仏教のほうにもいちばん古い経典である阿含経の「起世経」のなかに書かれて